育児中のスタッフ要望
入力作業など時間短縮

ソフトでは項目のパターンを登録するだけで一覧表示されるため、従来に比べて少しの修正入力で済むようになったという。利用者サービスの給付費請求の場合、毎月1回の入力作業が約2時間短縮された。

土居事務局長は「働きやすい職場をつくり、職員に長く勤めてもらうことで、生産性を上げていきたい」と語る。

現場で知的障害者と向き合う仕事はITを使ってもテレワーク化できないが、利用者と接することのない経理・管理業務は在宅勤務が可能だ。

さふらん会の職員数は約130人（6月3日現在）。知的障害者の通所施設2カ所、グループホーム4カ所、障害者の相談支援所1カ所などを運営するほか、介護ヘルパー の派遣も手掛けている。

最低限の時間内業務を決めた。同年12月に介護支援ソフトを導入、経理業務を自宅でも

たスマートフォンの画面イメージ

クト」はアドレス帳のプリ。シフト制で勤務するスタッフはスマートフォンを共有することがいが、同アプリをインストールすることで、出しているスタッフの情を画面上で即時に確認き、電話連絡が取れる。録したスタッフ情報の索も可能。

アプリ価格は1端末につき月200円、管理コンソール費（同社社員による各種設定や利用サポート）は年3万円。いずれも税別。同社は医療現場向けの展示会などで積極的に周知するほか、ナースコール製品を納めている顧客に提案していく。

インフォメーション

今年も「池上彰と考える」 「防災の日」に特別番組

1959年9月26日、東海地方を中心に甚大な被害をもたらした伊勢湾台風から今年は60年にあたる。いまでも日本列島は台風や地震、大雨など自然災害の被害が相次いでいる。

メ～テレ

メ～テレは9月1日の「防災の日」に特別番組「池上彰と考える―巨大自然災害から命を守れ～伊勢湾台風の記憶と教訓～」を放送する。時間は午後3時20分から。

この特別番組は、2011年3月11日に発生した東日本大震災以降、ジャーナリストの池上彰さん＝写真＝とメ～テレ災害取材班が毎年制作しているもので、今年で第8弾になる。

これまでは、主に「南海トラフ巨大地震」をはじめとする大地震・大津波について取り上げてきた。今年は伊勢湾台風から60年にあたるため、池上さんが伊勢湾台風のつめあとをたどり、この地方に与えた影響と教訓について考える。

また、台風のほかにも、大雨情報の「レベル化」や南海トラフ自身の「臨時情報」についても取り上げる。

メ～テレでは「いつ襲ってくるかわからない自然災害。『防災の日』に『命を守るために必要なこと』について、考える機会にしていただけたらと思います」としている。

海と繋がる体験イベント

31日と来月1日 浜名湖ボート場内で開催

浜名湖ボートでは8月31日と9月1日の2日間、「～海と日本プロジェクト～うれしｅａたのｓｅａはまなこｓｈｏｗ2019」を開催する。さまざまなマリンアトラクション体験会や、海・水・自然をテーマにした展示ブースが多数出展。大人から子どもまで、家族連れで楽しめそうだ。

ゴムボート乗艇体験

同イベントは、次世代へ海を引き継ぐために、海を介して人と人とがつながる『日本財団「海と日本プロジェクト」』の一環。浜名湖を中心に、「海」でつながる人の輪を作っていく。

競走水面イベントは、ペアボート乗艇体験、ゴムボート乗艇体験、バンブーヨガ体験、SUP&ビッグSUP体験など。屋内体験イベントは、お魚タッチプール&展示ブース、イルカやウミガメのロボットを使った海洋楽教室、パドラーボート乗艇体験など、いずれも楽しい催しでいっぱい。

また場内では、ボートレーサーのトークショーやステージイベントも。グルメ出店や地元のゆるキャラも大集合する。

時間は両日とも午前10時から午後4時。浜名湖ボート中央スタンド1階にて。入場無料。各イベントも全て体験無料。